

(様式第 10)

番 号
平成 年 月 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法人 日本医科大学
理事長 赫 彰郎 (印)

日本医科大学付属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5
氏 名	学校法人 日本医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

日本医科大学付属病院

3 所在の場所

〒113-8603 東京都文京区千駄木1-1-5	電話 (03) 3822 - 2131
-----------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 循環器内科 2 神経内科 3 腎臓内科 4 血液内科 5 消化器・肝臓内科 6 内分泌代謝内科 7 呼吸器内科 8 老年内科 9 リウマチ科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	① 有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 内分泌外科 3 心臓血管外科 4 呼吸器外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	① 有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 形成外科 2 漢方内科 3 病理診断科 4 リハビリテーション科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
27 床	床	床	床	870 床	897 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成28年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	619 人	16.2 人	635.2 人	看 護 補 助 者	78 人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0 人
歯 科 医 師	2 人	0.0 人	2.0 人	理 学 療 法 士	10 人	臨 床 検 査 技 師	106 人
薬 剤 師	68 人	0.0 人	68.0 人	作 業 療 法 士	3 人	検 査 衛 生 検 査 技 師	0 人
保 健 師	232 人	0 人	232 人	視 能 訓 練 士	7 人	そ の 他	0 人
助 産 師	22 人	0 人	22 人	義 肢 装 具 士	0 人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0 人
看 護 師	1069 人	2.0 人	1071.0 人	臨 床 工 学 士	31 人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	9 人
准 看 護 師	1 人	0 人	1 人	栄 養 士	2 人	そ の 他 の 技 術 員	7 人
歯 科 衛 生 士	2 人	0 人	2 人	歯 科 技 工 士	0 人	事 務 職 員	157 人
管 理 栄 養 士	7 人	0 人	7 人	診 療 放 射 線 技 師	67 人	そ の 他 の 職 員	45 人

※ 保健師・助産師は看護師の内数

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成28年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	35 人	眼 科 専 門 医	9 人
外 科 専 門 医	50 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	10 人
精 神 科 専 門 医	8 人	放 射 線 科 専 門 医	13 人
小 児 科 専 門 医	18 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	14 人
皮 膚 科 専 門 医	8 人	整 形 外 科 専 門 医	16 人
泌 尿 器 科 専 門 医	11 人	麻 酔 科 専 門 医	12 人
産 婦 人 科 専 門 医	17 人	救 急 科 専 門 医	22 人
		合 計	243 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (坂本 篤裕) 任命年月日 平成26年4月1日

--

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	758.8人	0人	758.8人
1日当たり平均外来患者数	2,004.5人	13.6人	2,018.1人
1日当たり平均調剤数			1,154.4剤
必要医師数			347.1125人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			26人
必要(准)看護師数			447人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	2520.07 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	56床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 119.078 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 32.43 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	479.81m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 検体前処理分注機、免疫化学分析装置、血液凝固測定機、尿定性測定機等			
細菌検査室	105.37m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 血液培養装置、抗酸菌液体培養装置、安全キャビネット等			
病理検査室	400.13m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 安全キャビネット、凍結切片作成装置、低温フリーザー等			
病理解剖室	101.09m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感染対策解剖台、遺体冷蔵庫、肉眼撮影装置等			
研究室	1503.34m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 病理組織学標本作成装置、細胞培養装置、オートクレーブ装置			
講義室	623.67m ²	鉄筋コンクリート	室数	4室	収容定員	620人
図書室	2524.67m ²	鉄筋コンクリート	室数	13室	蔵書数	69,000冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日	
紹介率	79.4 %	逆紹介率	47.0 %
算出根拠	A：紹介患者の数	19,980 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	15,152 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	5,630 人	
	D：初診の患者の数	32,247 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注) ※経過措置の適用により、様式第8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況 ※経過措置の適用により、様式第8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
骨髄細胞移植による血管新生療法	2人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	16人
内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	19人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
トレミキシンをを用いた吸着式血液浄化療法 突発性肺線維症	3人
アルテプラザーゼ静脈内投与による血栓溶解療法 急性脳梗塞(当該疾病の症状の発症時刻が明らかでない場合に限る。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	修正型通電療法	取扱患者数	400人
当該医療技術の概要 全身麻酔下でパルス波治療器を用いて両側額部に貼った電極シールから電流を通電することで脳神経細胞を刺激し、うつ病や緊張病等の症状を改善させる治療法。当精神神経科は都内でも有数の治療実績があり、中高年の身体合併症のある患者に積極的に利用し、高い改善率を示している。			
医療技術名	甲状腺未分化癌への分子標的薬治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 極めて予後不良な甲状腺未分化癌への新しく適応となった分子標的薬であるレンバチニブ投与を実施。			
医療技術名	経皮的心肺補助装置(PCPS)を用いた院外心停止症例の心肺脳蘇生	取扱患者数	32人
当該医療技術の概要 心停止が目撃され、かつ心原性心停止が強く疑われる院外心停止は一刻も早い脳循環を確保しつつ、自己心拍の再開を施行する必要がある。当施設では当該症例に積極的にPCPSを導入し、その後の集中治療も高い社会復帰率(約25%)を誇っている。			
医療技術名	重症頭部外傷例における脳低体温療法	取扱患者数	24人
当該医療技術の概要 重症頭部外傷では頭蓋内圧(ICP)制御が患者の生命予後を決定する最も大きな要因であるが、通常の治療法ではICP制御できない重症頭部外傷に体表冷却法を用いて34℃の脳低体温療法を導入して、多くの症例を救命している。			
医療技術名	ドクターカーシステムを用いた病院前の救急患者治療	取扱患者数	174人
当該医療技術の概要 東京消防庁と連携し重篤な救急患者に対して当院ドクターカーが救急現場に救急科専門医を派遣し、救急現場で治療を開始している。その結果、心肺停止症例の蘇生率はドクターカーシステムを使用しなかった場合と比較して蘇生率は約2倍高いことが実証されている。			
医療技術名	PCPS	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 経皮的カテーテルを挿入して人工心肺と接続。心配停止の状態でも循環を保つことができるため、来院時心肺停止の患者の治療に用いる。			
医療技術名	体外式膜型人工肺(ECMO)	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 人工呼吸器等の従来の治療法では生命が維持できない重症の呼吸不全、循環不全に対して行われる生命維持法			
医療技術名	家族性大動脈瘤の遺伝子変異スクリーニング	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 家族歴がある動脈瘤患者に対して、原因遺伝子のうち頻度が高く治療方針の選択が異なるCOL3A1, TGFBR1, 2 遺伝子全体をスクリーニングすることで変異の有無を同定する			
医療技術名	低フォスファターゼ症の遺伝子変異スクリーニング	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 低フォスファターゼ症を疑う患者に対して、原因遺伝子であるALPL遺伝子全体をスクリーニングすることで変異の有無を同定する			
医療技術名	遺伝子多型測定によるタクロリムス治療効果の予測評価	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 治療濃度域が狭く、個人差が大きい薬剤である免疫抑制剤タクロリムスの治療前にCYP3A5, MDR1遺伝子多型を解析し、免疫抑制剤の種類や量を選択することにより、安全な免疫抑制療法を実践する			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	35
2	筋萎縮性側索硬化症	9	57	特発性拡張型心筋症	69
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	28
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺	8	60	再生不良性貧血	37
6	パーキンソン病	102	61	自己免疫性溶血性貧血	
7	大脳皮質基底核変性症	3	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	65
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	1	65	原発性免疫不全症候群	6
11	重症筋無力症	65	66	IgA腎症	6
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	20
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	53	68	黄色靱帯骨化症	5
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	13	69	後縦靱帯骨化症	17
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	8
16	クドウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	19
17	多系統萎縮症	11	72	下垂体性ADH分泌異常症	23
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	32	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	29
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	14
21	ミトコンドリア病	3	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	20	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	44
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	133
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス	6	83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	123
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	41
31	ペスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	10
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓性肺高血圧症	3
34	神経線維腫症	17	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	21	90	網膜色素変性症	17
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	5
37	膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	2
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	44
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	15	95	自己免疫性肝炎	14
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	53
42	結節性多発動脈炎	3	97	潰瘍性大腸炎	155
43	顕微鏡的多発血管炎	9	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	5	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ	25	101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャー病	18	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	95	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	59	105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症	105	106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	22	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	12	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病	7	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	161		家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	162		類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113	筋ジストロフィー	163		特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164		眼皮皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	165		肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎	166		弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	167		マルファン症候群	1
118	脊髄髄膜瘤	168		エーラス・ダンロス症候群	4
119	アイザックス症候群	169		メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	170		オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症	171		ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症	172		低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173		VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174		那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175		ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群	176		コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	177		有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178		モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	179		ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	180		ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病	181		クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺	182		アペール症候群	
133	メビウス症候群	183		ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184		アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群	185		コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症	186		ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成	187		歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症	188		多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症	189		無脾症候群	
140	ドラベ症候群	190		鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191		ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん	192		コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193		プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	194		ソトス症候群	
145	ウエスト症候群	195		ヌーナン症候群	
146	大田原症候群	196		ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症	197		1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198		4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199		5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群	200		第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	201		アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群	202		スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	203		22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204		エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群	205		脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	206		脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	207		総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	208		修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	209		完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	210		単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群	2	270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎		276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症		283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	1
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	1
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	2
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュヤー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	2

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科外来診療環境体制加算	・
・特定機能病院入院基本料	・
・超急性期脳卒中加算	・
・診療録管理体制加算	・
・医師事務作業補助体制加算	・
・急性期看護補助体制加算	・
・看護職員夜間配置加算	・
・無菌治療室管理加算	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・病棟薬剤業務実施加算	・
・退院支援加算	・
・精神疾患診療体制加算	・
・救命救急入院料	・
・特定集中治療室管理料1	・
・特定集中治療室管理料3	・
・ハイケアユニット入院医療管理料	・
・小児入院医療管理料2	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん患者指導管理料1,2,3	・センチネルリンパ節生検(併用法)
・外来緩和ケア管理料	・画像診断管理加算1
・外来放射線照射診療料	・画像診断管理加算2
・ニコチン依存症管理料	・遠隔画像診断
・がん治療連携計画策定料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT撮影加算
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料1	・乳房MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・抗悪性腫瘍腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・外来化学療法加算1
・歯科治療総合医療管理料	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・持続血統測定器加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体管理加算(Ⅰ)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体管理加算(Ⅳ)	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・集団コミュニケーション療法料
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ヘッドアップティルト試験	・医療保護入院等診療料
・皮下連続式グルコース測定	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・長期頭蓋内脳波検査	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)
・神経学的検査	・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)
・補聴器適合検査	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・コンタクトレンズ検査料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1及び又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	・歯周組織再生誘導手術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・麻酔管理料(I)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・麻酔管理料(II)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・放射線治療専任加算
・磁気ナビゲーション加算	・外来放射線治療加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・高エネルギー放射線治療
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・1回線量増加加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・補助人工心臓	・定位放射線治療
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下肝切除術	・画像誘導密封小線源治療加算
・生体部分肝移植術	・病理診断管理加算
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・
・輸血管理料 I	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡下仙骨膿固定術	・硬膜外自家血注入療法
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	・内視鏡下子宮体がん根治手術
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	①生検CPC 月に5～6回 年66回開催 ②剖検CPC 月に4～5回 年52回開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 25 例 / 剖検率 4.6 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳卒中や心筋梗塞に関する医療連携構築に関する研究	横田 裕行	救命救急科	6,900,000	補委 厚生労働省
脳死患者の家族に選択肢提示を行う際の対応のあり方に関する研究	横田 裕行	救命救急科	10,825,000	補委 厚生労働省
びまん性肺疾患に関する調査研究	吾妻 安良太	呼吸器内科	500,000	補委 厚生労働省
原発性高脂血症に関する調査研究	稲垣 恭子	糖尿病・内分泌代謝内科	200,000	補委 厚生労働省
アレルギー疾患対策に必要とされる疫学調査と疫学データベース作成に関する研究	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	150,000	補委 厚生労働省
血液凝固異常症等に関する研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	800,000	補委 厚生労働省
強皮症・皮膚線維化疾患の診断基準・重症度分類・診療ガイドライン作成事業	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	400,000	補委 厚生労働省
遺伝子診断に基づく不整脈疾患群の病態解明および診断基準・重症度分類・ガイドライン作成に関する研究	清水 渉	循環器内科	300,000	補委 厚生労働省
ベーチェット病に関する調査研究	岳野 光洋	リウマチ・膠原病内科	400,000	補委 厚生労働省
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	田原 重志	脳神経外科	150,000	補委 厚生労働省
先天性骨髄不全症の登録システムの構築と診断ガイドラインの作成に関する研究	山口 博樹	血液内科	500,000	補委 厚生労働省
救急医療体制の推進に関する研究	横田 裕行	救命救急科	140,000	補委 厚生労働省
末梢型肺がんに対する光線力学的治療に関する臨床研究	臼田 実男	呼吸器外科	15,600,000	補委 日本医療研究開発機構
高齢者うつ病の病態診断と治療評価のためのイメージングバイオマーカーの開発と実用化	大久保 善朗	精神神経科	21,718,000	補委 日本医療研究開発機構
重症循環不全・呼吸不全に対する体外式膜型人工肺(ECMO)療法の治療体制構築に関する研究	竹田 晋浩	外科系集中治療科	6,840,000	補委 日本医療研究開発機構

小計 15 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
発症時刻不明の脳梗塞患者に対する静脈血栓溶解療法の適応拡大を目指した臨床研究	木村 和美	神経・脳血管内科	600,000	補 委	日本医療研究開発機構
強皮症の病態解明および革新的医薬品開発の研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	385,000	補 委	日本医療研究開発機構
重症肺高血圧症に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	260,000	補 委	日本医療研究開発機構
重症好酸球性副鼻腔炎に対する新しい治療戦略	大久保 公裕	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650,000	補 委	日本医療研究開発機構
臓器移植後成績向上のための、脳死臓器提供におけるドナー評価・管理システム・ガイドラインの作成	横田 裕行	救命救急科	300,300	補 委	日本医療研究開発機構
生体内分解性素材を用いた国産治療デバイスの開発-経カテーテル的心房中隔欠損孔閉鎖デバイスの開発-	太良 修平	循環器内科	1,500,000	補 委	日本医療研究開発機構
ゲノム情報で規定される超高リスク群の診断と、層別化・個別化予防のためのエビデンス構築をめざした臨床観察研究	渡邊 淳	遺伝診療科	440,000	補 委	日本医療研究開発機構
新規インフルエンザ等への対応に関する研究	竹田 晋浩	外科系集中治療科	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
小児造血器腫瘍(リンパ系腫瘍)に対する標準治療確立のための研究	前田 美穂	小児科	500,000	補 委	日本医療研究開発機構
生殖補助医療により出生した児の長期予後と技術の標準化に関する研究	竹下 俊行	女性診療科・産科	383,370	補 委	日本医療研究開発機構
ノン・ハイリスク群小児悪性固形腫瘍の安全性と治療後QOLの向上への新たな標準治療法開発のための他施設共同臨床研究	前田 美穂	小児科	458,250	補 委	日本医療研究開発機構
遺伝性心血管疾患における集中的な遺伝子解析及び原因究明に関する研究	清水 渉	循環器内科	1,200,000	補 委	日本医療研究開発機構
高速シーケンサーを用いた包括的臨床遺伝子検査システムの構築	久保田 馨	呼吸器内科	640,000	補 委	日本医療研究開発機構
間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	田原 重志	脳神経外科	364,000	補 委	日本医療研究開発機構
びまん性肺疾患に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究	吾妻 安良太	呼吸器内科	200,000	補 委	日本医療研究開発機構
慢性腎臓病の進行を促進する薬剤等による腎障害の早期診断法と治療法の開発	鶴岡 秀一	腎臓内科	1,300,000	補 委	日本医療研究開発機構

小計 16 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
慢性腎臓病(CKD)進行例の実態把握と透析導入回避のための有効な指針の作成に関する研究	鶴岡 秀一	腎臓内科	1,000,000	補 委	日本医療研究開発機構
サポータティブケアの提供体制と有用性評価の研究	久保田 馨	呼吸器内科	600,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
同種造血幹細胞移植治療の確立のための基盤研究	山口 博樹	血液内科	500,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
標準画像診断手順に従ったがん治療効果判定に関する研究	汲田 伸一郎	放射線科	700,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
アミロイド関連うつ病の分子イメージング	大久保 善朗	精神神経科	5,200,000	補 委	文部科学省
虚血再灌流病態を伴う外傷性脳内血腫に対する術前急速導入脳低温療法の有効性の検討	横堀 将司	救命救急科	2,990,000	補 委	文部科学省
アニオン型尿毒症性物質群を除去するハイブリッド型人工腎臓の開発	鶴岡 秀一	腎臓内科	1,040,000	補 委	文部科学省
薬剤送達システム徐放化多血小板血漿による血管再生治療	高木 元	循環器内科	1,040,000	補 委	文部科学省
臓器提供に関する本人、家族意思を反映し得る脳死判定補助検査に関する研究	横田 裕行	救命救急科	520,000	補 委	文部科学省
小児生体肝移植後グラフト肝加齢変化のテロメア長とテロメラーゼ活性による解明	川野 陽一	消化器外科	130,000	補 委	文部科学省
脳機能画像をもとにした二元的脳機能賦活戦略	原 行弘	リハビリテーション科	1,040,000	補 委	文部科学省
PETによる冠動脈ステント留置部位の炎症反応の非侵襲的評価	高野 仁司	循環器内科	1,430,000	補 委	文部科学省
特発性間質性肺炎合併肺癌の化学療法関連急性増悪予測バイオマーカーの探索的研究	峯岸 裕司	化学療法科	1,300,000	補 委	文部科学省
ドパミントランスポーターPETによる妄想の病態解明と容観的評価法の開発研究	舘野 周	精神神経科	1,170,000	補 委	文部科学省
心房細動治療における心房間伝導調整の研究	坂本 俊一郎	心臓血管外科	650,000	補 委	文部科学省
下垂体腺腫におけるGremlinの発現と細胞内シグナルの解析に関する研究	吉田 大蔵	脳神経外科	650,000	補 委	文部科学省
関節鏡下色彩色差計測による関節軟骨評価法の開発	高井 信朗	整形外科・リウマチ外科	1,690,000	補 委	文部科学省

小計 17 件

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
原因不明不育症における新規自己抗体とその標的抗原の同定	竹下 俊行	女性診療科・産科	780,000	補委 文部科学省
マイクロウェーブ照射による新しい脳損傷モデルの病態解析	布施 明	救命救急科	910,000	補委 文部科学省
マウス腎虚血再灌流障害モデルにおけるEgr-1の役割	新井 正徳	救命救急科	1,560,000	補委 文部科学省
急性腸間膜虚血の早期診断および救命率向上に向けた治療戦略の構築	金 史英	救命救急科	1,820,000	補委 文部科学省
ショック後腸管リンパ液生理活性および臓器障害に対する組織損傷の影響	増野 智彦	救命救急科	1,560,000	補委 文部科学省
脳梗塞モデルにおけるミクログリアとマクロファージが神経機能に与える影響の解明	西山 康裕	神経・脳血管内科	1,170,000	補委 文部科学省
MRIによる非侵襲温度分布モニタリングを指標とした関節深部加温法の開発	高橋 謙治	整形外科・リウマチ外科	1,430,000	補委 文部科学省
肺神経内分泌腫瘍の遺伝子変異・融合遺伝子の同定と新規治療標的バイオマーカーの開発	宮永 晃彦	呼吸器内科	1,170,000	補委 文部科学省
肺線維化病態におけるmTOR-SPARC経路の解明と新規バイオマーカーの探索	吾妻 安良太	呼吸器内科	1,950,000	補委 文部科学省
骨髄腫微小環境におけるSLAMファミリー分子の機能解析と新規治療の開発	田村 秀人	血液内科	1,430,000	補委 文部科学省
新規RCS1-ABL1遺伝子癌化能と分子標的薬開発	猪口 孝一	血液内科	1,430,000	補委 文部科学省
ベーチェット病におけるM2マクロファージ機能不全とその修復による治療戦略	岳野 光洋	リウマチ・膠原病内科	1,400,000	補委 文部科学省
末梢血単球を標的とした強皮症に対する新規治療法の開発	桑名 正隆	リウマチ・膠原病内科	1,690,000	補委 文部科学省
脂肪由来間葉系幹細胞を用いた骨髄再生の研究・人工骨髄の作成をめざして	植田 高弘	小児科	1,040,000	補委 文部科学省
川崎病発症機序の解明	深澤 隆治	小児科	1,820,000	補委 文部科学省
3次元タギングMRIを用いた心不全の予後予測	天野 康雄	放射線科	650,000	補委 文部科学省
外科的侵襲時における脂肪組織とM1/M2マクロファージのクロストーク機構の解明	松谷 毅	消化器外科	1,560,000	補委 文部科学省
cell free DNAを用いたEGFR阻害剤耐性獲得機序解明	山田 岳史	消化器外科	1,950,000	補委 文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膵癌におけるStat5の生物学的役割とそのシグナル伝達経路について	松下 晃	消化器外科	1,690,000	補委	文部科学省
尿路上皮癌における生理活性酸化物質の新規役割の究明	近藤 幸尋	泌尿器科	1,690,000	補委	文部科学省
網膜動脈閉塞症に対する水素水点眼の臨床応用	五十嵐 徹	眼科	1,430,000	補委	文部科学省
網膜酸化ストレス傷害に対する水素水点眼の効果	高橋 浩	眼科	1,560,000	補委	文部科学省
眼組織の移植と再生のための眼免疫応答の制御	堀 純子	眼科	1,820,000	補委	文部科学省
ケロイド発生における局所、全身、遺伝因子の相互作用機序の解明	小川 令	形成外科・再建外科・美容外科	1,430,000	補委	文部科学省
医学生を対象とした効率的な内視鏡外科手術手技トレーニングプログラムの開発	野村 務	消化器外科	1,300,000	補委	文部科学省
メタボリックシンドローム発症と節食行動:新規モデルマウスを用いた解析	杉原 仁	糖尿病・内分泌代謝内科	1,560,000	補委	文部科学省
救急・集中治療における一般の脳死判定の現況と患者対応に関する研究	荒木 尚	救命救急科	780,000	補委	文部科学省
造血幹細胞移植における脂肪組織由来間葉系幹細胞を用いた細胞療法の可能性の検討	早川 潤	小児科	1,430,000	補委	文部科学省
乳幼児早期マウスへの抗生剤投与の自然リンパ球への影響と喘息との関連	山西 慎吾	小児科	1,430,000	補委	文部科学省
アトピー性皮膚炎および乾癬の遺伝要因の研究	佐伯 秀久	皮膚科	1,950,000	補委	文部科学省
認知症におけるデフォルトモードネットワーク異常に関する分子イメージング研究	肥田 道彦	精神神経科	1,950,000	補委	文部科学省
認知症におけるデフォルトモードネットワーク異常に関する分子イメージング研究	汲田 伸一郎	放射線科	780,000	補委	文部科学省
微量検体からの遺伝子変異診断による消化管間質腫瘍の新規治療戦略	萩原 信敏	消化器外科	1,690,000	補委	文部科学省
ダブルポテンシャル法を応用した低侵襲心房細動手術の確立	新田 隆	心臓血管外科	130,000	補委	文部科学省
アデノ随伴ウイルスを用いて遺伝子導入した歯髄幹細胞移植による新規脳梗塞治療の開発	仁藤 智香子	神経・脳血管内科	1,690,000	補委	文部科学省
全身麻酔薬作用機序における分子生物学的検討	坂本 篤裕	麻酔科・ペインクリニック	1,690,000	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
外傷後臓器障害発生における骨軟部組織損傷の役割に関する研究	塚本 剛志	救命救急科	1,820,000	補委	文部科学省
新型高洗浄環境技術<CUSP>を用いた高齢者睡眠障害に関する研究	安武 正弘	総合診療科	1,560,000	補委	文部科学省
徐放化多血小板血漿による血管新生療法の開発	栗田 二郎	心臓血管外科	520,000	補委	文部科学省
MLL/AF4陽性ALLのS100A6抑制による新規治療開発	玉井 勇人	血液内科	1,300,000	補委	文部科学省
小児喘息のphenotype-endotypeに寄与するバイオマーカーの解明	林 美雪	小児科	1,040,000	補委	文部科学省
In vitroイメージングを用いた吸入麻酔薬セボフルランの標的分子の探索	安齋 めぐみ	麻酔科・ペインクリニック	780,000	補委	文部科学省
全身麻酔を受けた術後患者の自律神経活動を基盤とした離床プログラムの開発	細萱 順一	看護部	650,000	補委	文部科学省
Nestin siRNAによるメラノーマの腫瘍抑制効果について	秋山 美知子	皮膚科	1,560,000	補委	文部科学省
リアルタイム抗がん剤濃度コントロールによる革新的閉鎖循環下骨盤内抗がん剤灌流療法	小野澤 志郎	放射線科	1,820,000	補委	文部科学省
角膜血管リンパ管新生におけるICOSの働き	國重 智之	眼科	2,210,000	補委	文部科学省
超微細手術のための汎用プラットフォーム開発とそれを交える超精密テクノロジーの追求	森田 明夫	脳神経外科	520,000	補委	文部科学省
センチネルリンパ節を特定する磁気プローブの開発	武井 寛幸	乳腺科	390,000	補委	文部科学省
冠動脈プラーク破綻発症機序の解明:コレステロール結晶の重要性	高野 仁司	循環器内科	390,000	補委	文部科学省
全身性エリテマトーデスにおける炎症制御機構の破綻メカニズム	岳野 光洋	リウマチ・膠原病内科	130,000	補委	文部科学省
肝内胆管がんに対する複合型細径ファイバを用いた光線力学治療研究	臼田 実男	呼吸器外科	130,000	補委	文部科学省
膵癌におけるNestinのリン酸化制御による抗腫瘍効果の検討	松下 晃	消化器外科	65,000	補委	文部科学省
腰部脊椎管狭窄症における黄色靭帯肥厚メカニズムの解明	小川 令	形成外科・再建外科・美容外科	260,000	補委	文部科学省
非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価	大久保 善朗	精神神経科	260,000	補委	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
遺伝性不整脈の新規原因遺伝子検索およびゼブラフィッシュを用いた不整脈重症度評価	清水 渉	循環器内科	650,000	補 委	文部科学省
ユビキチン化修飾系を治療標的とする膠原病の新規治療法の可能性について	岳野 光洋	リウマチ・膠原病内科	130,000	補 委	文部科学省
乳糜胸水に対する経皮的胸管塞栓術の基礎的検討: 実験動物モデルの確立と安全性の検討	小野澤 志郎	放射線科	26,000	補 委	文部科学省
穿刺吸引細胞診検体のトランスクリプトーム解析による甲状腺癌術前診断の可能性を探る	杉谷 巖	内分泌外科	130,000	補 委	文部科学省

小計 4 件

計 106 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Morita T	麻酔科・ペインクリニック	Identical microRNAs regulate liver protection during anaesthetic and ischemic preconditioning in rats: An animal study	PLoS One 2015, 10(5): e0125866
2	Otsuki T	麻酔科・ペインクリニック	Volatile anesthetic sevoflurane ameliorates endotoxin-induced acute lung injury via microRNA modulation in rats	Biomedical Reports 2015, 3(3): 408-412
3	Murata S	放射線科	Feasibility and safety of negative-blance isolated pelvic perfusion in patients with pretreated recurrent or persistent uterine cervical cancer	Annals of Surgical Oncology 2015, 22(12): 3981-3989
4	Yamada T	消化器外科	Incidence of Nausea and Vomiting Induced by Oxycodone Administered with Prochlorperazine in Japanese Cancer Patients	J Nippon Med Sch 2015, 82(2): 100-105
5	Shimizu W	循環器内科	Where does heterogeneity exist in ventricular tachyarrhythmias?	Heart Rhythm 2015, 12(6): 1304-1305
6	Makino H	消化器外科	Endoscopy for Diseases with Esophageal Dysphagia	Seminars in Dysphagia 2015: 91-104
7	Kimura Y	麻酔科・ペインクリニック	Effect of electroconvulsive stimulation on messenger RNA expression in the prefrontal cortex in a rat pain model	Biomedical Reports 2015, 3(6): 802-806
8	Fujimoto S	麻酔科・ペインクリニック	Influence of neonatal sevoflurane exposure on nerve development-related microRNAs and behavior of rats	Biomedical Research 2015, 36(6): 347-255
9	Sekine T	放射線科	4D flow MRI assessment of extracranial-intracranial bypass: qualitative and quantitative evaluation of the hemodynamics	Neuroradiology 2015: 1-8
10	Sekine T	放射線科	Evaluation of atlas-based MR-attenuation correction for integrated PET-MR in human brain by using PET-CT and PET-MR patient data	J Nucl Med 2015
11	Amano Y	放射線科	Magnetic resonance imaging of microvascular obstruction in hypertrophic obstructive cardiomyopathy after percutaneous transluminal septal	Acta Radiol 2015, 56(11): 1323-1328
12	Amano Y	放射線科	Distribution and clinical significance of high signal intensity of the myocardium on T2-weighted images in 2 phenotypes of hypertrophic cardiomyopathy	J Comput Assist Tomogr 2015, 39(6): 951-955
13	Amano Y	放射線科	Contrast-enhanced steady-state free precession in the assessment of hypertrophic obstructive cardiomyopathy after alcohol septal ablation	Magn Reson Med Sci 2016, 9: 32-36

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
14	Nakamura K	消化器外科	Clinical outcomes for 14 consecutive patients with solid pseudopapillary neoplasms who underwent laparoscopic distal pancreatectomy	Asian Journal of Endoscopic Surgery 2016, 9: 32-36
15	Arima J	形成外科・再建外科・美容外科	Hypertension: a systemic key to understanding local keloid severity	Wound Repair Regeneration 2015, 23(2): 213-221
16	Iimura T	形成外科・再建外科・美容外科	Estimating Lymphodynamic Conditions and Lymphovenous Anastomosis Efficacy Using (99m)Tc-phytate Lymphoscintigraphy with SPECT-CT in Patients with Lower-limb Lymphedema.	Plast Reconstr Surg Glob Open 2015, 3(5): e404
17	Sano H	形成外科・再建外科・美容外科	Influence of oxygen on wound healing dynamics in healing-impaired diabetic mice.	Journal of Plastic Surgery and Hand Surgery 2015, 49(3); 135-140
18	Sano H	形成外科・再建外科・美容外科	Foot loading is different in people with and without pincer nails: a case control study.	Journal of Foot and Ankle Research 2015, 8: e43
19	Sano H	形成外科・再建外科・美容外科	Wound care matrices for chronic leg ulcers: comparative effectiveness and role in therapy.	Chronic Wound Care Management and Research. 2015, 2: 113-118
20	Dohi T	形成外科・再建外科・美容外科	Tissue Inhibitor of Metalloproteinase-2 Suppresses Collagen Synthesis in Cultured Keloid Fibroblasts	Plast Reconstr Surg Glob Open 2015,3(9): e520
21	Sano H	形成外科・再建外科・美容外科	Topical wound oxygen therapy for chronic diabetic lower limb ulcers and sacral pressure ulcers in Japan	Wounds International 2015, 26(8): 111-118
22	Morita M	腎臓内科	Glomerular Endothelial Cell Injury and Focal Segmental Glomerulosclerosis Lesion in Idiopathic Membranous Nephropathy	PLOS ONE 2015, 10(4): e0116700
23	Kaneko T	腎臓内科	Comparison of immunosuppressive therapies for IgA nephropathy after tonsillectomy: three-course versus one-course steroid pulse combined with	International Urology and Nephrology 2015, 47(11): 1823-1830
24	Yodogawa K	循環器内科	Warfarin use and incidence of stroke in Japanese hemodialysis patients with atrial fibrillation.	Heart Vessels 2015, 8
25	Oyama S	皮膚科	BRAF, KIT and NRAS mutations and expression of c-KIT, phosphorylated extracellular signal-regulated kinase and phosphorylated AKT in Japanese melanoma patients.	J Dermatol 2015, 42(5): 477-484
26	Saeki H	皮膚科	THE Brief Commentary on Guidelines for the Management of Atopic Dermatitis 2015.	Arerugi 2015, 64(10): 1306-1312
27	Ogita A	皮膚科	Melasma in a Male patient due to Estrogen Therapy for prostate Cancer.	Ann Dermatol 2015, 27(6): 763-764

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
28	Mizuguchi Y	消化器外科	Host cellular microRNA involvement in the control of hepatitis B virus gene expression and replication	World Journal of Hepatology 2015, 7(4): 696-702
29	Fujita E	腎臓内科	Glomerular capillary and endothelial cell injury is associated with the formation of necrotizing and crescentic lesions in crescentic glomerulonephritis.	J Nippon Med Sch 2015, 82(1): 27-35
30	Shima A	循環器内科	Beraprost Sodium Protects Against Diabetic Nephropathy in Patients with Arteriosclerosis Obliterans: A Prospective, Randomized, Open-label Study	J Nippon Med Sch 2015, 82(2): 84-91
31	Takahashi N	循環器内科	Long-term Hemodialysis Corrects Left Ventricular Dyssynchrony in End-stage Renal Disease: A Study with Gated Technetium-99m Sestamibi Myocardial Perfusion Single-photon Emission Computed Tomography	J Nippon Med Sch 2015, 82(2): 75-83
32	Ozaki S	皮膚科	Granulocyte colony-stimulating factor induced granulomatous dermatitis with enlarged histiocytes clinically manifesting painful edematous nodules with high fever like Sweet's syndrome.	J Dermatol 2015, 42(4): 414-417
33	Watanabe Y	腎臓内科	High urinary albumin/creatinine ratio at admission predicts poor functional outcome in patients with acute ischemic stroke	Nephrology 2016
34	Muraga K	神経・脳血管内科	Limb-shaking TIA: Cortical myoclonus associated with ICA stenosis	Neurology 2016, 86(3): 307-309
35	Suzuki K	神経・脳血管内科	Correlation between the Occlusion Site and Clinical Outcome after Acute Ischemic Stroke	Intern Med 2015, 54(24): 3139-3144
36	Sakamoto Y	神経・脳血管内科	Thrombolysis, Complete Recanalization, Diffusion Reversal, and Luxury Perfusion in Hyperacute Stroke	J Stroke Cerebrovasc Dis 2016, 25(1): 238-239
37	Nagayama H	神経・脳血管内科	Pharmacokinetics of Levodopa before and after Gastrointestinal Resection in Parkinson's Disease	Case Rep Neurol 2015, 7(3): 181-185
38	Suda S	神経・脳血管内科	Valproic acid ameliorates ischemic brain injury in hyperglycemic rats with permanent middle cerebral occlusion	Brain Res 2015, 1606: 1-8
39	Suda S	神経・脳血管内科	Autologous Bone Marrow Mononuclear Cells Exert Broad Effects on Short- and Long-Term Biological and Functional Outcomes in Rodents with Intracerebral Hemorrhage	Stem Cells Dev 2015, 24(23): 2756-2766
40	Murakami R	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Effects of Dendritic Cell Subset Manipulation on Airway Allergy in a Mouse Model	International Archives of Allergy and Immunology 2016, 168(4): 219-232

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
41	Nanno M	整形外科・リウマチ外科	Transverse ultrasound assessment of the flexor pollicis longus tendon movement on the distal radius during wrist and finger motion in distal radius fracture patients with volar plating	The Journal of Medical Ultrasonics 2015, 43(1): 29-36
42	Murata S	放射線科	Feasibility and Safety of Negative-Balance Isolated Pelvic Perfusion in Patients with Pretreated Recurrent or Persistent Uterine Cervical Cancer	Ann Surg Oncol 2015, 22(12): 3981-3989
43	Nanno M	整形外科・リウマチ外科	Ultrasound evaluation of the transverse movement of the flexor pollicis longus tendon on the distal radius during wrist and finger motion in healthy volunteers	Journal of Nippon Medical School 2015, 82(5): 220-225
44	Murata S	放射線科	Minimizing Systemic Leakage of Cisplatin during Percutaneous Isolated Pancreas Perfusion Chemotherapy: A Pilot Study	Radiology 2015, 276(1): 102-109
45	Murata S	放射線科	Retrograde-outflow percutaneous isolated hepatic perfusion using cisplatin: A pilot study on pharmacokinetics and feasibility	Eur Radiol 2015, 25(6): 1631-1638
46	Nanno M	整形外科・リウマチ外科	Three-dimensional analysis of the attachment and path of the transverse carpal ligament	Journal of Nippon Medical School 2015, 82(3)130-135
47	Watanabe H	整形外科・リウマチ外科	Amplatzer Vascular Plug Anchoring Technique to Stabilize the Delivery System for Microcoil Embolization	Cardiovasc Intervent Radiol 2015
48	Onozawa S	放射線科	Amplatzer Vascular Plug Anchoring Technique to Stabilize the Delivery System for Microcoil Embolization	Cardiovasc Intervent Radiol 2015
49	Takagi G	循環器内科	Imaging Angiogenesis Using ^{99m} Tc-Macroaggregated Albumin Scintigraphy in Patients with Peripheral Artery Disease	J Nucl Med 2015, 57(2): 192-197
50	Murai Y	脳神経外科	An Irrigation Suction System Using a Pressurized Fluid High-Flow Pump System in Comparison with a Standard Cuff Pressure System: Technical Note	J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg 2015
51	Hironaka K	脳神経外科	Enzyme replacement in the CSF to treat metachromatic leukodystrophy in mouse model using single intracerebroventricular injection of self-complementary AAV1 vector	Sci Rep 2015, 18(5): 13104
52	Morimoto D	脳神経外科	Microsurgical Decompression for Peroneal Nerve Entrapment Neuropathy	Neurol Med Chir (Tokyo) 2015, 55(8): 669-673
53	Yokobori S	救命救急科	Outcome and Refractory Factor of Intensive Treatment for Geriatric Traumatic Brain Injury: Analysis of 1,165 cases registered in the Japan Neurotrauma Data Bank.	World Neurosurg. 2016, 86: 127-133
54	Tamura H	血液内科	Single vs double stem cell transplantation for the treatment of multiple myeloma.	Nihon Rinsho 2015, 73(1): 85-89

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
55	Tamai H	血液内科	Effective Management of Acute Promyelocytic Leukemia with High Risk of Fatal Intracranial Hemorrhage	Biol Med 2015, 8(1)
56	Tamai H	血液内科	Sensitivity of RCSD1–ABL1 Positive Acute Lymphoblastic Leukemia to TKIs Varies between Fusion sites in Ph-like Acute Lymphoblastic Leukemia	International Journal of Recent scientific Research 2016
57	Yamaguchi H	血液内科	The clinical and genetic features of dyskeratosis congenita, cryptic dyskeratosis congenita, and Hoyeraal-Hreidarsson syndrome in Japan	Int J Hematol 2015, 102(5): 544-552
58	Fukushima Y	放射線科	Prognostic value of myocardial perfusion SPECT after intravenous bolus administration of nicorandil in patients with acute ischemic heart failure	J Nucl Med 2016, 57(3): 385-391
59	Igarashi T	眼科	The conjunctival sensitivity in soft contact lens wearers.	International ophthalmology 2015, 35(4): 569-573
60	Igarashi T	眼科	Improvements in subjective symptoms/objective signs of dry eye after 2% rebamipide instillation	J Nippon Med Sch 2015, 82(5): 229-236
61	Yamawaki H	消化器・肝臓内科	Improvement of meal-related symptoms and epigastric pain in patients with functional dyspepsia treated with acotiamide was associated with acylated ghrelin levels in Japan.	Neurogastroenterology MoTil 2016
62	Ueda S	精神神経科	Neuroleptic-induced deficit syndrome in bipolar disorder with psychosis.	Neuropsychiatr Dis Treat 2016, 12: 265-268
63	Ueda S	精神神経科	Psychotic Depression with Pseudodementia Misdiagnosed as Dementia Remitted with TCA	The International Journal of Clinical Psychiatry and Mental Health 2015, 3(1): 1-3
64	Araki T	救命救急科	Simulation-based training for determination of brain death by pediatric healthcare providers.	Springerplus 2015, 4(412)
65	Igarashi T	小児科	Improvements in Signs and Symptoms of Dry Eye after Instillation of 2% Rebamipide	J Nippon Med Sch 2015, 82: 229-236
66	Miyana A	呼吸器内科	Hippo pathway gene mutations in malignant mesothelioma: revealed by RNA and targeted exon sequencing.	J Thorac Oncol 2015, 10(5): 844-851
67	Koeda M	精神神経科	Interaction effect between handedness and CNTNAP2 polymorphism (rs7794745 genotype) on voice-specific frontotemporal activity in healthy individuals: an fMRI study	Frontiers in Behavioral Neuroscience 2015, 9(87): 1-13
68	Nagao M	糖尿病・内分泌代謝内科	Transgenerational changes of metabolic phenotypes in two selectively bred mouse colonies for different susceptibilities to diet-induced glucose intolerance	Endocrine Journal 2015, 62(4): 371-378

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
69	Kawaji H	整形外科・リウマチ外科	Conservative Treatment for Fracture of the Proximal Femur with Complications	Journal of Nippon Medical School 2016, 83(1): 2-5
70	Ohashi R	病理診断科	Diagnostic value of fine needle aspiration and core needle biopsy in special types of breast cancer	Breast Cancer 2015
71	Nomura S	泌尿器科	Dual-specificity tyrosine phosphorylation-regulated kinase 2 (DYRK2) as a novel marker in T1 high-grade and T2 bladder cancer patients receiving neoadjuvant chemotherapy : DYRK2 is associated with survival in bladder cancer.	BMC Urol 2015, 54(9): 1085-1090
72	Hara K	消化器外科	Surgical Specimens of Colorectal Cancer Fixed with PAXgene Tissue System Preserve High-Quality RNA	Biopreservation and Biobanking 2015, 13(5): 325-334
73	Watanabe A	遺伝診療科	Proteomic analysis for the identification of serum diagnostic markers for joint hypermobility syndrome	International Journal of Molecular Medicine 2016, 37(2): 461-
74	Miwa M	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Comparative analysis of cytokine release from epithelial cell culture of upper airway.	Rhinology 2015, 53(2): 135-141
75	Miwa M	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Changes in contents of arachidonic acid metabolites in nasal lavage and mucosal tissues in response to allergen challenge in patients with allergic rhinitis.	J Otol Rhinol 2015, 1: 20-25
76	Miwa M	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Peroxide tone in human inferior nasal turbinate with allergy.	J Otol Rhinol 2015, 1: 15-19
77	Murota H	皮膚科	Characterization of socioeconomic status of Japanese patients with atopic dermatitis showing poor medical adherence and reasons for drug discontinuation.	J Dermatol Sci 2015, 79(3): 279-287
78	Kanzaki A	皮膚科	Insulin-like growth factor 2 mRNA-binding protein-3 as a marker for distinguishing between cutaneous squamous cell carcinoma and keratoacanthoma.	Int J Oncol 2016, 48(3); 1007-1015
79	Kinoshita Y	小児科	Elevated levels of antibodies against phosphatidylserine/prothrombin complex and/or cardiolipin associated with infection and recurrent purpura in a child: a forme fruste of antiphospholipid syndrome?	Dermatol Online J 2015, 21(7)
80	Aoki J	神経・脳血管内科	Early administration of tissue-plasminogen activator improves the long-term clinical outcome at 5 years after onset	J Neurol Sci 2016, 362: 33-39
81	Hashiguchi H	整形外科・リウマチ外科	SLAP repair with arthroscopic decompression of the spinoglenoid cyst	SICOT-J 2015

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
82	Hashiguchi H	整形外科・リウマチ外科	The outcome of hemiarthroplasty for proximal humeral fractures is dependent on the status of the rotator cuff	International Orthopaedics
83	Asano T	小児科	Visualization of different characteristics of cerebrospinal fluid with acute encephalopathy and febrile seizures using pattern recognition analysis of 1H NMR.	Pediatr Res 2015, 77(1-1): 70-74
84	Tanoue M	心臓血管外科	Treatment of Wolff-Parkinson-White syndrome with a thoroscopic surgical procedure	Annals of thoracic surgery 2015, 100: e11-e13
85	Mine T	放射線科	Glue Embolization of a Blunt Traumatic Hepatic Arteriovenous Fistula under Inflow and Outflow Control	Journal of Nippon Medical School 2016, 38(1): 27-30
86	Sugano T	呼吸器内科	Inhibition of ABCB1 Overcomes Cancer Stem Cell-like Properties and Acquired Resistance to MET inhibitor in Non-Small Cell Lung Cancer	Mol Cancer Ther 2015, 14: 2433-2440
87	Okano T	呼吸器内科	Identification of haptoglobin peptide as a novel serum biomarker for lung squamous cell carcinoma by serum proteome and peptidome profiling	Int J Oncol 2016, 48(3): 945-952
88	Matsumoto M	呼吸器内科	Control of the MYC-eIF4E axis plus mTOR inhibitor treatment in small cell lung cancer	BMC Cancer 2015, 9(15): 241
89	Nishijima H	呼吸器内科	miR-200/ZEB axis regulates sensitivity to nintedanib in non-small cell lung cancer cells	Int J Oncol 2016, 48(3): 937-944
90	Takahashi M	東洋医学科	Dichloroacetate induces cell cycle arrest in human glioblastoma cells persistently infected with measles virus: A way for controlling viral persistent infection	Antiviral Res. 2015, 113: 107-110
91	Nakagawa Y	東洋医学科	Effect of extracellular pH and hypoxia on the function and development of antigen-specific cytotoxic T lymphocytes	Immunol. Lett. 2015, 167(2): 72-86
92	Shinya E	東洋医学科	Hemopoietic cell kinase (Hck) and p21-activated kinase 2 (PAK2) are involved in the down-regulation of CD1a lipid antigen presentation by HIV-1 Nef in dendritic	Virology 2016, 487: 285-295
93	Murakami R	東洋医学科	Effects of dendritic cell subset manipulation on airway allergy in a mouse model	Int. Arch. Allergy Immunol. 2016, 168(4): 219-232
94	Kubota Y	循環器内科	Chronic obstructive pulmonary disease advances in left ventricular diastolic dysfunction	International Journal of COPD 2016, 11(1): 649-655
95	Bando M	呼吸器内科	Clinical Experience of the Long-term Use of Pirfenidone for Idiopathic Pulmonary Fibrosis.	Intern Med 2016, S0091(16): 24-25

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
96	Miyazaki Y	呼吸器内科	Cyclosporine A combined with low-dose corticosteroid treatment in patients with idiopathic pulmonary fibrosis.	Respir Investig 2015, 53(6): 288-295
97	Taguchi Y	呼吸器内科	Efficacy of pirfenidone and disease severity of idiopathic pulmonary fibrosis: Extended analysis of phase III trial in Japan.	Respir Investig 2015, 53(6): 279-287
98	Kondoh Y	呼吸器内科	Risk factors for acute exacerbation of idiopathic pulmonary fibrosis - Extended analysis of pirfenidone trial in Japan.	Respir Investig 2015, 53(6): 271-278
99	Kamio K	呼吸器内科	Nintedanib modulates surfactant protein-D expression in A549 human lung epithelial cells via the c-Jun N-terminal kinase-activator protein-1 pathway.	Pulm Pharmacol Ther. 2015, 32: 29-36
100	Mochimaru H	呼吸器内科	Reconsideration of discrepancies between clinical and histopathological features in acute eosinophilic pneumonia.	Sarcoidosis Vasc Diffuse Lung Dis. 2015, 31(4): 325-335
101	Koketsu K	脳神経外科	Gremlin, a Bone Morphogenetic Protein Antagonist, Is a Crucial Angiogenic Factor in Pituitary Adenoma	International Journal of Endocrinology 2015
102	Matsumoto M	呼吸器内科	Cisplatin-induced apoptosis in non-small-cell lung cancer cells is dependent on Bax- and Bak-induction pathway and synergistically activated by BH3-mimetic ABT-263 in p53 wild-type and mutant cells.	Biochemical and Biophysical Research Communications 2016, 3(53)
103	Matano F	脳神経外科	Olfactory preservation during anterior interhemispheric approach for anterior skull base lesions: technical note	Neurosurg Rev 2016, 39(1): 63-69
104	Hattori Y	脳神経外科	Characterization of the fundamental properties of the N-terminal truncation (Delta exon 1) variant of estrogen receptor alpha in the rat	Gene 2015, 571(1): 117-125
105	Matano F	脳神経外科	Risk of rupture of unruptured cerebral aneurysms in elderly patients	Neurology 2016, 85: 169-176
106	Iizawa N	整形外科・リウマチ外科	Influence of the medial knee structures on valgus and rotatory stability in total knee arthroplasty	The Journal of Arthroplasty 2016, 31(3): 688-693
107	Yamada A	血液内科	Evaluating an enhanced International Prognostic Index (NCCN-IPI) in our institutions with diffuse large B-cell lymphoma.	Rinsho Ketsueki 2015, 56(7): 915-918
108	Yokota T	眼科	Protective effect of molecular hydrogen against oxidative stress caused by peroxynitrite derived from nitric oxide in rat retina	Clinical & Experimental Ophthalmology 2015
109	Iijima O	眼科	Prevention of Lethal Murine Hypophosphatasia by Neonatal Ex Vivo Gene Therapy Using Lentivirally Transduced Bone Marrow Cells	Human Gene Therapy 2015, 26(12): 801-812

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
110	Yui S	血液内科	Epstein-Barr virus-positive T cell lymphoproliferative disease following umbilical cord blood transplantation for acute myeloid leukemia	J Nippon Med Sch 2016, 83(1): 35-42
111	Wakita S	血液内科	Complex genetic abnormalities involving three or more genetic mutations are important prognostic factors for acute myeloid leukemia	Leukemia 2016, 30(3): 545-554
112	Iwamoto N	脳神経外科	Repetitive plantar flexion test as an adjunct tool for the diagnosis of common peroneal nerve entrapment neuropathy	World Neurosurg 2015, 15: 1248-1256
113	Iwamoto N	脳神経外科	Low back pain due to superior cluneal nerve entrapment neuropathy in patients with Parkinson's disease.	World Neurosurg 2015, 15: 1644-1647
114	Nakagawa S	脳神経外科	4D flow preliminary investigation of a direct carotid cavernous fistula due to a ruptured intracavernous aneurysm.	BMJ Case Rep 2015
115	Ohashi R	病理診断科	Mucinous carcinoma of the breast :a comparative study on cytohistological findings associated with neuroendocrine differentiation	Cytopathology 2016
116	Okabe M	血液内科	Clinical features of Japanese polycythemia vera and essential thrombocythemia patients harboring CALR, JAK2V617F, JAK2Ex12del, and MPLW515L/K mutations	Leuk Res 2016, 40: 68-76
117	Pawankar R	小児科	The paradigm of cytokine networks in allergic airway inflammation	Curr Opin Allergy Clin Immunol. 2015, 15(1): 41-48
118	Shida Y	小児科	Secondary cancers after a childhood cancer diagnosis: a nationwide hospital-based retrospective cohort study in Japan	Int J Clin Oncol 2015
119	Shuto Y	糖尿病・内分泌代謝内科	Repetitive Glucose Spikes Accelerate Atherosclerotic Lesion Formation in C57BL/6 Mice	PLoS One 2015, 10(8): e0136840
120	Matsuo I	麻酔科・ペインクリニック	Characterization of sevoflurane effects on Per2 expression using ex vivo bioluminescence imaging of the suprachiasmatic nucleus in transgenic rats.	Neurosci Res 2015
121	Morita M	神経・脳血管内科	Glomerular endothelial cell injury and focal segmental glomerulosclerosis lesion in idiopathic membranous nephropathy.	PLoS One 2015, 10(4): e0116700
122	Kaneko T	神経・脳血管内科	IgA Nephropathy and Psoriatic Arthritis that Improved with Steroid Pulse Therapy and Mizoribine Combination with Treatment for Chronic Tonsillitis and Epipharyngitis.	Intern Med 2015, 54(9): 1085-1090
123	Kaneko T	神経・脳血管内科	Comparison of immunosuppressive therapies for IgA nephropathy after tonsillectomy: three-course versus one-course steroid pulse combined with mizoribine	Int Urol Nephrol 2015, 47(11): 1823-1830

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
124	Tani T	神経・脳血管内科	Pulmonary hemorrhage associated with Henoch-Schoenlein purpura in an adult patient primary diagnosed of IgA nephropathy	CEN Case Rep 2015, 4: 48-54
125	Igarashi Y	救命救急科	Pathophysiology of microwave-induced traumatic brain injury	Biomed Rep. 2015
126	Yamaguchi M	救命救急科	The Effects of Xanthine Oxidoreductase Inhibitors on Oxidative Stress Markers following Global Brain Ischemia Reperfusion Injury in C57BL/6 Mice	Plos one 2015

計 126 件

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	田村 秀人	血液内科	多発性骨髄腫におけるSLAMファミリー分子の機能とそれらを標的としたキメラ抗原受容体遺伝子改変T細胞免疫療法	血液内科 2015, 70(2): 211-221
2	山田 岳史	消化器外科	特集:絞扼性腸閉塞の診断と治療 病態に基づいた造影CTによる絞扼性イレウスの早期診断	日本腹部救急医学会雑誌 2015, 35(4): 403-407
3	青木 悠人	消化器外科	造影効果の客観的評価による絞扼性イレウスの診断	日本腹部救急医学会雑誌 2015, 35(3): 201-206
4	中村 慶春	消化器外科	特集 消化器内視鏡治療・腹腔鏡下手術をめぐって 膵臓に対する腹腔鏡下手術	日本医師会雑誌 2015, 144(4): 739-742
5	野村 務	消化器外科	腹壁癒痕ヘルニアに対するメッシュを用いた腹腔鏡下手術	日本医科大学医学会雑誌 2015, 11(2): 16-19
6	松谷 毅	消化器外科	特集:食道破裂,穿孔の診断と治療における戦略と工夫 食道破裂・穿孔の検討	日本腹部救急医学会雑誌 2015, 35(1): 61-65
7	谷合 信彦	消化器外科	特集 超高齢者の消化器疾患—その特徴と治療上の注意 11超高齢者に対する消化器外科治療上の問題点	臨牀 消化器内科 2015, 30(4): 481-486
8	横堀 将司	救命救急科	重症頭部外傷におけるPerfluorocarbonを用いた脳蘇生の有効性と限界	脳死・脳蘇生 2015, 27(2): 63-70
9	村田 広茂	循環器内科	先天性・二次性QT延長症候群. 循環器疾患と分子遺伝学	循環器内科 2015, 77(4): 331-337
10	中村 慶春	消化器外科	膵癌の外科治療—腹腔鏡下切除術—	消化器外科 2015, 38(10): 1437-1443
11	太田 恵一朗	消化器外科	特集 外科医に求められる積極的緩和医療—延命と症状緩和の狭間で 知っておきたい緩和医療の積極的介入法 癌性腹水に対するCARTと薬物療法	臨床外科 2015, 10(13): 1487-1492
12	進士 誠一	消化器外科	特集Reduced port surgeryの最新手技 回盲部切除術におけるReduced port surgery	手術 2015, 35(6): 729-735
13	南野 光彦	整形外科・リウマチ外科	超音波短軸像による正中神経の手根管内的移動の検討—手根管開放術前後の比較—	日本手外科学会雑誌 2015, 32(2): 52-54
14	南野 光彦	整形外科・リウマチ外科	超音波による橈骨遠位端部における長母指屈筋の腱滑動の検討—掌側プレート固定抜去前後の変化について—	骨折 2015, 37(2): 292-296
15	南野 光彦	整形外科・リウマチ外科	重度手根管症候群に対する母指対立再建術—小皮切によるCamitz変法の経験—	整形外科 2015, 66(10): 1076-1079

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
16	村田 智	放射線科	「IVR治療戦略:術前に必要な画像診断はこれだ!」原発性肝細胞癌に対するTACEに必要な画像診断の実際	臨床画像 2015, 31(5): 567-576
17	高橋 謙治	整形外科・リウマチ外科	運動器の要 軟骨疾患の病態と治療	Clinical Calcium 2015, 25(8): 92-98
18	一戸 唱	眼科	超音波乳化吸引における各種粘弾性物質と前房温度変化	眼科手術 2015, 28(2): 269-274
19	成重 竜一郎	精神神経科	【子どもの自殺をめぐる】救命救急センターにおける若年自殺未遂者の特徴	児童青年精神医学とその近接領域 2015, 56(2): 179-189
20	吾妻 安良太	呼吸器内科	IPF治療の新時代 特発性肺線維症患者を対象にニンテダニブ投与を行ったINPULSIS試験のアジア人サブグループ解析	日本呼吸器学会誌 2015,4: 23
21	清水 哲也	消化器外科	特集:ERCPのトラブルシューティング ERCPに起因した後腹膜穿孔の原因と対応	日本腹部救急医学会雑誌 2015,36(1):79-85
22	森田 明夫	脳神経外科	脳幹インプラント:有用性と課題 特集3 電気信号を用いた神経機能再建	脳21 2015, 18(1): 76-83
23	森田 明夫	脳神経外科	未破裂脳動脈瘤とくも膜下出血の予防と治療の科学的根拠	脳21 2015, 18(3): 157-164
24	芹澤 元子	眼科	日本医科大学付属病院眼科における8年間の内眼炎患者の統計的観察	日本眼科学会雑誌 2015, 119(5): 347-355
25	桑原 慶充	女性診療科・産科	早産の予知・予防の新たな展開-子宮頸部円錐切除後の早産発症と予防	臨床婦人科産科 2015, 69(3): 327-333
26	山脇 博士	消化器・肝臓内科	食道・胃・十二指腸疾患機能性ディスペプシア	Medicina 2015, 52(10): 1682-1687
27	植田 高弘	小児科	小児白血病治療の現状と展望	日本医科大学医学雑誌 2015, 11(4)
28	小野 修一	女性診療科・産科	Stop the 流産子宮奇形と不育症	産婦人科の実際 2015, 64(6): 783-789
29	竹下 俊行	女性診療科・産科	いま、性分化とその異常を考える性器奇形の種類と診断・治療	産婦人科の実際 2015, 64(10): 1275-1281
30	関根 仁樹	女性診療科・産科	婦人科腹腔鏡手術の最前線骨盤臓器脱に対する腹腔鏡手術-今注目されている腹腔鏡下仙骨脛固定術	産科と婦人科 2015, 82(11): 1235-1241

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
31	中尾 仁彦	女性診療科・産科	卵巣チョコレート嚢胞術後再発予防におけるジエノゲスト長期投与の有効性の検討	日本エンドメトリオーシス学会会誌 2015, 36(7): 101-103
32	関根 仁樹	女性診療科・産科	当院での膣子宮内膜症に対する手術療法について	日本エンドメトリオーシス学会会誌 2015, 36(7): 180-183
33	山口 博樹	血液内科	骨髄異型性関連変化を伴うAML(AML-MRC)の治療戦略	血液内科 2016, 72(2): 179-184
34	山口 博樹	血液内科	古典的MPNの治療目標-ELNおよびIWG-MRTのコンセンサスガイド	血液内科 2015, 71(2): 308-313
35	山口 博樹	血液内科	MPNの診療のエビデンス-ランドマーク的臨床試験を中心に	臨床血液 2015, 56(8): 939-948
36	山口 博樹	血液内科	2015年の白血病診療. 白血病の分類と治療と予後	内科 2015, 116(2): 217-222
37	山口 博樹	血液内科	骨髄不全症候群におけるテロメア制御異常	日本医科大学雑誌 2015, 11(3): 136-144
38	猪口 孝一	血液内科	急性混合性白血病の診断と治療	血液内科 2015, 71(5): 660-665
39	猪口 孝一	血液内科	急性白血病の診断・予後予測に必要な染色体・遺伝子検査	血液内科 2015, 70(5): 549-554
40	猪口 孝一	血液内科	本態性血小板血症の血小板数のコントロールは必要か 予後スコアと遺伝子変異を基盤としたコントロールが必要である	血液フロンティア 2015, 25(6): 106-110
41	田原 重志	脳神経外科	下垂体腫瘍の内視鏡下手術	日本医師会雑誌 2016, 144(10): 2102-2103
42	田村 秀人	血液内科	多発性骨髄腫の進展様式	Medicina 2015, 52(12)
43	大内 望	女性診療科・産科	周産期と死亡を考える流産・習慣流産の疫学	周産期医学 2016, 46(3): 257-260
44	梅井 菜央	外科系集中治療科	急性重症呼吸不全におけるECMO管理の実際	Respiratory Medical Research 2015, 3(4): 270-272
45	五十嵐 健人	内分泌外科	【家族性腫瘍学-家族性腫瘍の最新研究動向-】臓器・領域別家族性腫瘍の臨床 副腎腫瘍	日本臨床 2015, 73(増刊6): 471-475

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
46	赤塚 純	泌尿器科	腎泌尿器領域におけるIgG4関連疾患に対する外科的治療介入について	腎臓内科・泌尿器科 2015, 2(3): 335-338
47	明楽 重夫	女性診療科・産科	腹腔鏡下仙骨脛固定術(Laparoscopic sacrocolpopexy, LSC)の新展開	日本女性骨盤底医学会誌 2015, 12: 9-12

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 研究の種類、審査委員会と窓口、研究内容と審査機関、臨床研究実施の流れ、研究計画書作成ならびに申請時の注意事項、研究計画の事前登録、学外での研究計画書の審査依頼について、相談窓口	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 12 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 委員会の構成、審議事項、利益相反マネジメントのプロセス、臨床研究に係る利益相反の審議に関する倫理委員会との関係、利益相反マネジメントの管理の方法等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 20 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 平成27年4月20日 「臨床研修のあり方と方向性」 「人を対象とする医学系研究の倫理指針施行に伴う申請書類の改訂」 平成27年5月21日 「研究倫理と臨床研究」 「人を対象とした医学系研究の倫理指針施行に伴う申請書類の改訂」	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院の専門研修プログラムは、2年間の必修初期臨床研修の終了後、さらに臨床医学に関する知識と技能を向上させ、より専門的な臨床研修を行うためのものである。各診療科が、それぞれの分野での専門研修について、専門医取得や大学院進学、さらに海外留学等につながる多彩な研修コースを提示している。日本医科大学付属病院、千葉北総病院、武蔵小杉病院、多摩永山病院の四つの付属病院のそれぞれの特色を生かした診療体制の中で、自由にローテーションが可能であり、高度な医療、先進医療の研修を可能にしている。愛と研究心を有し、質の高い医療を求める国民のニーズに応えうる人材の育成を目指す。

2 研修の実績

研修医の人数	145.84 人
--------	----------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
清水 渉	循環器内科	部長	30 年	
木村和美	神経内科	部長	29 年	
鶴岡秀一	腎臓内科	部長	26 年	
猪口孝一	血液内科	部長	34 年	
岩切勝彦	消化器・肝臓内科	部長	29 年	
杉原 仁	内分泌代謝内科	部長	32 年	
久保田馨	呼吸器内科	部長	32 年	
安武正弘	老年内科	部長	31 年	
大久保善朗	精神科	部長	35 年	
伊藤保彦	小児科	部長	32 年	
佐伯秀久	皮膚科	部長	24 年	
坂本篤裕	麻酔科	部長	32 年	
汲田伸一郎	放射線科	部長	29 年	
内田英二	消化器外科	部長	39 年	
杉谷 巖	内分泌外科	部長	26 年	
新田 隆	心臓血管外科	部長	34 年	
白田実男	呼吸器外科	部長	21 年	
森田明夫	脳神経外科	部長	33 年	
高橋 浩	眼科	部長	32 年	
大久保公裕	耳鼻いんこう科	部長	31 年	
竹下俊行	産婦人科	部長	34 年	
近藤幸尋	泌尿器科	部長	30 年	
高井信朗	整形外科	部長	35 年	
小川 令	形成外科	部長	16 年	
横田裕行	救命救急科	部長	35 年	
桑名正隆	リウマチ科	部長	27 年	
高橋秀実	漢方内科	部長	35 年	
内藤善哉	病理診断科	部長	33 年	
久野彰子	歯科	部長	22 年	
原 行弘	リハビリテーション科	部長	30 年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容<ol style="list-style-type: none">1. スキルアップ教育「がん看護 ELNEC-J」 がん患者のエンド・オブ・ライフ・ケアを向上させるための知識を習得する。2. シミュレーション教育指導者養成研修 看護教育の場でシミュレーション教育を用いた教育実践者を養成する。・研修の期間・実施回数<ol style="list-style-type: none">1. 平成27年11月7日、12月21日、平成28年3月12日（3日間）2. 平成27年9月19日、9月20日、平成28年1月9日、1月10日（4日間）・研修の参加人数<ol style="list-style-type: none">1. 15名2. 12名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	<input checked="" type="radio"/> 2. 現状
閲覧責任者氏名	院長 坂本 篤裕	
閲覧担当者氏名	庶務課長 樋口 憲二	
閲覧の求めに応じる場所	閲覧室	
閲覧の手続の概要		
閲覧についての書類を受取後、対応		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	件
閲覧者別	医師	延 件
	歯科医師	延 件
	国	延 3 件
	地方公共団体	延 4 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理に関する基本的考え方2. 医療に係る安全管理の組織に関する基本的事項3. 医療安全管理のための職員研修に関する基本的事項4. 事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5. 医療事故発生時の対応に関する基本方針6. 当院と患者との間の情報の共有に関する基本方針7. 患者からの相談への対応に関する基本方針8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理の指針の見直し、医療安全管理研修の計画、事故防止対策の策定・周知2. 安全管理に関する広報活動3. その他院長から諮問を受けた事項	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">① 平成27年度 第1回 医療安全管理研修講演会 演 題：RRSとは？ 院内緊急事例に対するセーフティネット 講 師：東京ベイ・浦安市川医療センター センター長 藤谷 茂樹 開催日：平成27年5月25日② 平成27年度 第2回 医療安全管理研修講演会 演 題：「医療事故調査制度の概要 ～医療従事者として知っておくべきこと・やるべきこと～」 講 師：損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント株式会社 星野 智史 開催日：平成27年11月30日	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 医療安全管理集中管理システム (セーフマスター) での管理2. 医療安全ウェブサイト (安全オンデマンド) による情報共有3. 医療安全管理に関する規定 (指針・ガイドライン・マニュアル) の改正・周知4. 医療安全管理の手引きの改正・配布5. リスクマネージャ会議 (月 1 回) における改善方策周知6. 院内リスクアナウンス (安全情報等) の周知確認登録 (安全オンデマンド・電子カルテシステム画面を利用したポータルサイト) 等	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 院内感染対策に関する基本的考え方2) 院内感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項3) 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針4) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針6) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7) その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 感染対策の強化、追加、改善に関する方針・対応策の決定。2) サーベイランスデータのフィードバックと問題点に関する対応方法・計画の策定。3) 感染防止ガイドライン、マニュアル、指針の策定及び改訂に関すること。4) 院内対策研修及び教育活動に関する実施計画の策定。5) 上記1～4に関する周知・徹底、ならびに周知・徹底方法に関する協議・決定。6) アウトブレイク等院内発生事象に関する報告及び対応方法の協議・決定(臨時会議開催等)。7) 感染制御室、感染制御チームに対する助言、支援	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 新人職者(研修医、専修医を含む全職種)研修(講義および実技演習)。2) 院内感染対策研修講演会(全従業者を対象として)<ul style="list-style-type: none">・ H27/7/9 医療関係者におけるワクチン接種について/MERS(中東呼吸器症候群)について・ H27/11(8回開催)手指衛生手技チェック・ H28/2/26 当院の微生物サーベイランスと感染対策①当院の耐性菌の分離状況と今後の展望、②標準予防策、接触予防策の周知に向けて3) 部門・職種別研修(講義および実技演習)<ul style="list-style-type: none">①中途採用・異動・復帰者 ②清掃委託および派遣職員 ③臨床工学技士、放射線技師等④高度救命救急センター及び血液内科医師・医学生 ⑤医局カンファレンスでの感染症報告と感染対策の周知等⑥薬剤部、検査技師実習生	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	有・無
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) 薬剤耐性菌及び感染症感染防止対策と報告<ul style="list-style-type: none">・ 私立医科大学病院感染対策協議会、管轄保健所等関連機関への相談・報告・支援依頼・ 薬剤耐性菌積極的監視培養検査の継続実施・ 菌分離時の現場への速報FAXによる報告と医師、看護師間の情報共有及び現場での感染対策自己点検・ 菌分離時の感染管理看護師、感染症医の現場ラウンドと指導、介入・ 薬剤耐性菌感染防止マニュアル、アウトブレイク対応マニュアル等感染防止マニュアルの改訂・ 感染対策の周知・徹底に係る電子カルテ、イントラネット、感染管理マネージャーの活用・ 感染管理に係る新規器材の採用、変更および運用手順の変更・作成・ 保菌患者使用病室等、環境消毒清掃体制の運用2) 標準予防策の周知・徹底<ul style="list-style-type: none">・ 手指消毒薬使用量サーベイランスとフィードバック	

- ・ 感染制御チームラウンド
- 3) 組織体制
 - ・ 感染症法に基づく届け出の確認体制
 - ・ 感染管理マネージャーの実働

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容： 医薬品の安全使用のための研修（最近の医薬品関連の事故、事件、薬剤部からの医薬品安全性情報について、日本医療評価機構からの、医薬品に関する安全性情報について）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 年2回(3-9月)に薬剤部、病棟、外来、医局長、薬事委員に対して、その実施状況をチェックリストを用いて確認。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 薬剤部では未承認薬等の使用予定の情報が薬剤部に入った場合には、担当医師に倫理委員会に承認してもらうよう、お願いをしている。また、その情報については薬品情報室にて保管している。	

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年2回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：人工呼吸器医療機器の有効性・安全性に関する事項（平成27年5月29日）医療機器の使用方法に関する事項（平成27年4月3日）	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る計画の策定 (有・無)保守点検の主な内容： 外観点検、機能点検、性能点検、電源動作、電気的安全性試験 等	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容： PMDAの医療安全情報、製造および販売業者より情報収集	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者は、常勤の医師で、医療安全担当副院長（医療安全管理部部長）が担い医療安全管理部門や医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者の4つの業務を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有(3 名)・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>薬剤部では、添付文書、製造販売業者、行政・PMDA、学術誌などから情報を収集し、医薬品情報や薬剤部ニュースを作成し、部長会、医長会、医局、病棟などに配布し、電子カルテのポータルサイトでも確認できるようにしている。安全性情報が出た際には、前述の各媒体で周知するとともに、該当医薬品を使用している患者では、主治医へ連絡を行う。医薬品安全管理責任者はこれらの業務を薬剤部カンファレンス、日誌等で定期的に確認している。また、部長会等で医薬品情報に関するプレゼンテーションを行なっている。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>病棟薬剤師等が業務実施の際、未承認等の医薬品の使用を確認した場合には、主治医に「保険適応外治療に関する特記事項」の記載に準じた対応をお願いしている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有・無)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無)</p> <p>・規程の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) ガイドラインの目的(2) IC に対する姿勢(3) 原則(4) IC を行なうべきとき、IC の書式、同意書書式などの細目について(5) IC ガイドライン細則	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<p>・活動の主な内容：</p> <p>診療録等の適正な記載を目的として診療録等の監査を行う。なお、記載内容が不十分と思われる場合は適正な指導を行う。</p>	

⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<p>・所属職員：専従（12）名、専任（3）名、兼任（10）名</p> <p>うち医師：専従（1）名、専任（3）名、兼任（4）名</p> <p>うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名</p> <p>うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（2）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全管理委員会の定期開催（月1回） 2. リスクマネージャ会議の定期開催（月1回） 3. 個人情報保護推進委員会の定期開催（月1回） 4. 医療安全相互ラウンドの実施 5. 日本医療機能評価機構への参画 6. 医療安全管理に関する規定（指針・ガイドライン・マニュアル）の改正等 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p>	
<p>⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況</p> <p>※経過措置の適用により、様式第8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</p>	
<p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	
<p>⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況</p> <p>※経過措置の適用により、様式第8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</p>	
<p>・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）</p>	

⑨ 監査委員会の設置状況 ※経過措置の適用により、様式第8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照					有・無
・ 監査委員会の開催状況：年 回 ・ 活動の主な内容： ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無） ・ 公表の方法：					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）※経過措置の適用により、様式第8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 586 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 216 件 ・医療安全管理委員会の活動の主な内容 医療安全管理委員会は、上記報告が適切に行われているかを確認し、その結果を院長に報告している。仮に報告が不十分であれば、必要な指導などを行っている。
<p>⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院への立入り（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：東海大学医学部付属病院）・無） ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：東海大学医学部付属病院）・無） ・技術的助言の実施状況 私立医科大学病院医療安全相互ラウンドにて、年1回以上、他の特定機能病院に職員を立ち入らせ、医療安全管理の改善に向けた技術的助言を受けている。
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 （設置状況等） <ol style="list-style-type: none"> 1. 窓口の名称：患者相談窓口 2. 責任者の氏名及び職種：医療安全管理部部长（医師） 3. 対応部署：医療安全管理部、患者支援センター 4. 相談日及び相談時間帯：平 日：午前9時より午後5時 土曜日：午前9時より午後4時 5. 規約の整備状況：日本医科大学付属病院患者相談窓口運営細則（平成17年4月1日施行） （活動状況等） <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者等への明示方法：本館、中央棟、東館に相談時間、場所を明示。入院のご案内に明記。相談により患者等が不利益を受けないよう適切な配慮の具体的方策：プライバシーに留意し、個室対応をしている。
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）
<p>⑭ 職員研修の実施状況</p> <p>※経過措置の適用により、様式第8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

※経過措置の適用により、様式第8「医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について」を参照

・研修の実施状況

医薬品安全管理責任者：年度毎に日本病院薬剤師会主催の医薬品安全管理責任者等講習会を受講している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：日本医療機能評価機構 病院機能評価 一般病院2 時 期：平成27年1月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院ホームページにて情報を発信（実施している先進医療の掲載等） 公開市民講座の開催 懇話会の開催	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 当院では総合診療センターを設立し、初診患者、1-2次救急患者の診療および医学生・研修医の臨床実習を行っている。外傷は救急診療科、内因性疾患は総合診療科の医師が担当する。消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、血液内科、老年内科、消化器外科、形成外科、脳神経外科などから出向した専門医が連携をとりながら診療にあたる。 研修医のみならず、各診療科配属の専門研修医もローテーションして初期診療に対する総合力を養う。多臓器に障害を有する患者では、総合診療科の医師が複数の診療科との連携をとり、病院総合医として外来・病棟の診療を管理する。	

(様式第 8)

番
平成 年 月 日
号

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 日本医科大学
理事長 赫 彰郎 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

配置年月日：平成 26 年 4 月 1 日

職 名：副院長、医療安全管理部部長

要件の確認：医療安全担当副院長（医療安全管理部部長）を医療安全管理責任者とし、医療安全管理部門や医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者の 4 つの業務を統括している。

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

① 医薬品安全管理責任者は、医療法施行規則第 9 条 23 第 1 項第 3 号イ、ロに掲げる措置を適切に実施するとともに、その担当者を置き下記の業務にあたらせている。9 月 1 日整備済み。

② 医薬品安全管理責任者は、月 1 回程度定期的に薬剤部カンファレンスを行い、担当者に指示し薬剤部各部署から医薬品の使用状況について報告させる。これらの報告から医薬品安全管理責任者は、必要に応じ医薬品の適正使用にかかる注意喚起(禁忌等や緊急安全性情報等)を院内全体に行わせ、特に当該薬品にかかわる診療科における周知状況の確認と必要に応じ手順の見直しを行っている。9 月 1 日整備済み。

③ 担当者は未承認薬や適応外使用の処方があった場合は、倫理委員会での審議が必要である旨を当該科に連絡のうえ、所定の書式をもって医薬品安全管理責任者に報告している。9 月 1 日整備済み。

④ 医薬品安全管理責任者は、定期的に医療安全に係る研修を受講する（なお、本年度は平成 28 年 11 月 12 日ガーデンシティ名古屋で行なわれる日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会の出席を予定している）。9 月 1 日整備済み。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

当該責任者は、当院のインフォームド・コンセント委員会委員長がその任に当たる。既に当該委員会委員長は決定されているため、既に対応済である。

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

患者に対する説明と同意については、インフォームド・コンセント委員会に於いて既にガイドラインが作成されている。なお、同ガイドラインが適切に実施されているか否かの監査体制については、診療録の監査に関する基準があり、定期的実施されており、その監査項目にインフォームド・コンセントが組み込まれている。

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

平成 28 年 9 月 30 日までに診療録管理室規定に項目を追加し、診療録管理室室長を診療録等の管理に関する責任者として規定する予定である。

6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

平成27年4月1日より、院内における全ての死亡患者報告を確認することで、医療の安全を担保することを目的に、医師は全死亡症例についてセーフマスター「死亡事例報告」で報告を行っている。また、上記報告が適切に行われているかを確認し、その結果を管理者に報告している。仮に報告が不十分であれば、必要な指導などを行っている。

(1)報告内容

①入院日

②侵襲的手術・処置・検査の有無、実施年月日、実施内容

③死亡原因

④死亡に至る経緯

⑤解剖の有無

⑥死亡後の家族への説明の有無、説明を受けた家族（患者との関係）、説明内容、家族の反応

⑦死亡カンファレンスの実施の有無

⑧死亡に至るまでの問題

なお、上記以外の場合であって通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして管理者が定める水準以上の事象が発生したときには、従業者に速やかに医療安全管理部門にその事実及び事実の発生前の状況を報告させている。

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

平成25年9月1日付で法人監査部に公益通報窓口を設置している。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

平成28年4月1日付で医療安全管理部に新たに専従の医師を配置し、医療安全の確保に資する診療の状況の把握、従業者の医療安全に関する意識の向上の状況確認を実施している。

また、医療安全管理部において取り扱うことが必要なものとして管理者が認める事象が発生した場合、診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導を行っている。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

現在検討中であり、平成29年3月31日までに設置する予定である。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成29年3月31日までに作成する予定である。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

現在検討中であり、平成29年3月31日までに設置する予定である。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

平成29年3月31日までに作成する予定である。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

現在検討中であり、平成29年3月31日までに設置する予定である。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

私立医科大学病院医療安全相互ラウンドにて、年1回以上、他の特定機能病院に職員を立ち入れ、医療安全管理の改善に向けた技術的助言を受けている。

立入りの計画：連携先→当院 帝京大学医学部附属病院 29年2月（実施予定）
当院→連携先 帝京大学医学部附属病院 29年2月（実施予定）

15. 職員研修を実施するための予定措置

- (1) 平成29年3月31日までに、医療法施行規則第九条の二三第一項各号に掲げる事項に関する職員研修を実施する体制を整備する。
- (2) 監査委員会の設置後、医療の安全管理については是正措置を講ずるよう意見の表明があった場合、当該意見に関する事項について職員研修を実施する体制を整備する。
- (3) 医師、歯科医師、薬剤師、看護師その他の従業者が連携及び協働して高度の医療を提供するために必要な知識及び技能に関する事項について、職員研修を実施する体制を整備する。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

平成30年3月31日までに、各責任者の業務分野における医療に係る安全管理に係る外部研修を定期的に受講する体制を整備する。

17. 医療安全管理部門の人員体制

平成15年1月1日、医療安全管理委員会で決定された方針に基づき、組織横断的に当院における医療に係る安全管理における企画立案及び評価、医療安全に関する従業者の安全管理に関する意識向上や指導等の業務を行うことを目的に医療安全管理部を設置した。

医療安全管理部構成（平成28年4月1日現在）

- ・所属職員：専従（12）名、専任（3）名、兼任（10）名
 - うち医師：専従（1）名、専任（3）名、兼任（4）名
 - うち薬剤師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（1）名
 - うち看護師：専従（3）名、専任（0）名、兼任（2）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

看護師：平成15年1月1日付で専従として配置。

薬剤師：平成21年7月1日付で専従として配置。

医師：平成28年4月1日付で専従として配置。